

一般社団法人 松本青年会議所 広報誌 Vol.3

発行：一般社団法人
松本青年会議所
広報渉外拡大委員会

Leaders

2020年11月20日発行



いつまでも
咲き乱れよう
未来のため
郷土のために



観光連携推進委員会

信州まつもと空港⇄宮古島・下地島空港を繋ぐ

観光都市松本への昇華
冬場の観光対策の検討
信州まつもと空港の持つ可能性の発信

- 【実施事業】
- 松本の冬を熱くする（学び）事業『～冬の松本観光を体験する～』
 - 5月第一例会『ここから松本の観光を熱くする』
 - 松本の空を熱くする事業『～信州まつもとと空港⇄宮古島・下地島空港を繋ぐ～』



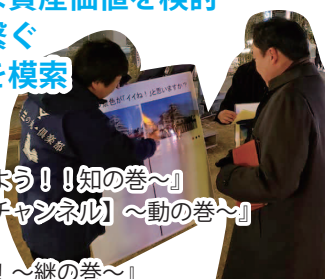
冬の松本観光を体験する

松本城を未来に繋げよう！～継の巻～

郷土のレガシー発信委員会

松本城などの歴史的な資産価値を検討
次世代とレガシーを繋ぐ
サンガク都の可能性を模索

- 【実施事業】
- 4月第一例会『～松本城に関心を抱かせよう!! 知の巻～』
 - 松本城発信事業『【MJCチャンネル】～動の巻～』
 - 11月第一例会『松本城を未来に繋げよう！～継の巻～』



4月第一例会
松本城に関心を
抱かせよう!!
～知の巻～
郷土のレガシー発信委員会



松本青年会議所企画番組
みんなの疑問!
松本城の気になること、聞いてみた

委員会活動報告 2020年度

コロナ禍化でもできたこと
新しい変化が生まれたこと。
できなかったこと。
様々な1年間



このまちの未来を前向きに考える事業の構築
若者とのセッション事業の構築
SDGsを用いた持続可能なまちづくりを検討



松本市長選挙に向けた投票率向上運動
次世代を見据えた若者の居場所づくり
未来に繋がる意識調査の実施

- 【実施事業】
- 2月第一例会『～郷土の未来選択のために、学び・考え・語り合う～』
 - 主権者意識向上事業『郷土の未来を考え、選択する～』
 - 夏の想い出の居場所づくり事業『～同じ空を見あげよう! 咲かせよう! みんなの心に希望の華を!～』
 - 7月第一例会『～郷土の子どもたちの為に我々に何ができる～』

郷土の未来選択委員会



同じ空を見あげよう! 咲かせよう! みんなの心に希望の華を!



防災対策の検証と構築
各種団体との災害協定の模索
あらゆる世代の防災への意識付け

- 【実施事業】
- 3月第一例会『「知る」そして・・・』
 - 【事業外】
 - 令和2年7月豪雨災害義援金募金

郷土強靱化委員会



次世代に向けた会務機能の構築
戦略的な財務運営及び基金の道筋を検討
会員の資質向上

- 【実施事業】
- 新入会員資質向上事業『～VビジュアルFフューチャー～』
 - 資質向上（更なる組織力向上に向けて）事業『～咲き乱れるために～』
 - 資質向上事業『～咲き乱れるために～』
 - 12月第二例会『卒業生に感謝を～そして想いを永遠に～』
 - 定時総会 ・臨時総会

総務組織力向上委員会



第121回定時総会

広報渉外拡大委員会

組織の価値向上を目指す戦略的広報
出向者のサポート
100名体制を目指す会員拡大実践
姉妹青年会議所との交流事業の実施

- 【実施事業】
- 広報事業『とどけよう 松本JCIのかぜ』
 - 会員拡大事業『～八十花繚乱～』
 - 10月第一例会『local to LOCAL ～地域と世界を繋ぐ礎～』
 - 12月第一例会『百花繚乱～最期まで咲き乱れよう未来のため、郷土のために～』



One Soul, One Heart
松本山雅フィジカルチャレンジ in 2020 with MJC

未来のJAYCEE育成会議

新入会員同士の絆を深める
青年会議所の基礎を学ぶ
自らの提案、発信する力を身に付ける

- 【実施事業】
- 年間：メンバートレーニング
 - One Soul, One Heart 山雅d e 松本市街地発見事業
 - One Soul, One Heart 松本山雅フィジカルチャレンジ in 2020 with MJC
 - 8月第一例会『シニアから現役へ伝えたい想い』
 - 家族パーティー事業『BE WITH YOU ～家族とともに～』



【MJCチャンネルスタート!】12月1日から 2020年度活動動画配信決定! 詳しくは8Pへ➡

会社員目線から見る JCの意義と課題

JCで活動しているのは、決して経営者だけではない。本業は会社員でありながら、住みくらすまの未来を切り開こうと奮闘しているメンバーも多く所属している。今回はその中から来年の理事を務める今関尚子君、増田春樹君に加え、卒業生の竹内隆君を交えた座談会を企画。3人の目線から、JCの存在意義や新たな組織像を探る。



郷土のレガシー発信委員会 委員

増田 春樹君

広報渉外拡大委員会 委員長

竹内 隆君

郷土のちから創造委員会 副委員長

今関 尚子君

——入会のきっかけは？

竹内：たまたまうちの会社に松本青年会議所の18代理事長がいて、「竹内くんは地元だしどうだい？」と言われて、「やります」と。自分の中で経営者や2代目の方の集まりという認識でしたが、実際にはサラリーマンの方とか色々な業種の人がいるのを知りました。

今関：私もどちらかというと「2代目、3代目のすごい方々が頑張っている組織」というイメージでした。でも自分が個人として活動する中で、改めてこの組織じゃないとできないことがあるかもしれないと感じて入会を決めました。

増田：僕は2015年に会社が今の場所に引っ越したのですが、その年はちょうどうちの社長が理事長でした。そうしたら、引っ越しをJCの伊藤前理事長ほか数名の方が手伝ってくれたんですよ。それで「この人たちはどういう繋がりなんだろう？」というのが初めてJCを知ったきっかけ。実際どういう活動をしているかはわからなくても、他社の引っ越しを手伝う組織ってすごい繋がりだなと。それでお手伝いしてもらった伊藤さんが去年理事長になられて、「引っ越しの恩返しをしたい」



と面接で言って入りました。

今関：かっていい！私もそういうの言えよ良かった（笑）。

——実際に入ってみてのイメージの変化は？

今関：「思った以上にみんな真剣に街のことを語るんだ！」という印象でした。最初は、どちらかと言えば仕方なく入っている人が多くて、主体性はどれくらいあるのかな？と思っていました。私は個人的にも活動をしていて、だからこそ見えていても届かない場所があるのをすごく感じていました。でもJCは行政と市民の良い距離感、ちょうどハブ的なポジションにいるなど。入会して1年半ですが、行政にできない、市民レベルでも難しいこともJCならできる。結果的にかけがえのない同期もできました。

増田：僕も入ってみて、思ったより仲間意識が強い団体だと感じましたね。理事長を先頭に同じ方向を向いて進んでいくし、仲間とはJC以外でも友達感覚で、プライベートでも遊びに行きます。年齢も職種も違う人たちが集まってマジメなこともするし、飲み会に行ったり遊びに行ったり。そういう仲間って大人になってなかなかできるものではないので、入って良かったと思います。

竹内：僕も37歳で入ったけど、「この歳でこんなに仲良くなる友達なんてできる！？」っていうくらい仲良くなりました。本当に僕もびっくりしたけど、自分より若いメン

バーもみんなまちのことを語りますよね。そこがすごく楽しかったです。僕は「やるか？」と言われて入っただけで、「まちのために何かをしたい」と思っていたわけでもないのに、入ってみると「自分もやりたい」と思ってくるようになりました。

今関：事業の前の1週間くらいは文化祭前の1週間のような雰囲気ですね。中学高校とそういう役員をやっていたので、「あのときの感じと一緒に！」って思います。

——やりがいはいかがでしょうか？

竹内：自分がただ会社の仕事だけをしていたら絶対にやらなかったことをやれて、松本の人に感動してもらったりしてすごくやりがいを感じました。計画を進める上ではいろんな指摘をいただきますが、それが本業の仕事にも反映されています。「何のためにこの仕事をするのか」という。ＪＣの理事会に計画を上げたときは、背景や目的などの順序が整っていないと見抜かれるので、仕事をする時もそういう考え方を意識するようになりました。

今関：ＪＣに入る人は、サラリーマンでも主体性を持って働いている人が多いですよ。「今後自分がどう仕事をしていくか」「どう生きていくか」を考えている人は多いのかなと。そういう意味では、パラレルキャリアを形成していく上でのカギになるファクターなのかなと感じています。本業ではなかなかできない体験や繋がりもＪＣならできるし、視野も人脈も広がる。そういう意味で本当に可能性があるので、経営者でも会社員でも関係なく、これから輝ける人はたくさんいるだろうと思います。

増田：僕自身は会社員でも入る人がもっと増えた方がいいと思っています。プロジェクトの進め方一つを取ってもサラリーマンと経営者でやり方が違うので、互いに参考になる部分があります。会社員の比率が高くなれば、結果的にもっとＪＣが充実できるのではないかと。もちろん経営者の方々もそれぞれの苦労があるのは当然ですが、サラリーマンも現実的でノリだけではやってられない。仕事も大事だからＪＣも仕事もちゃんとやりますね。

今関：私たちのような立場の人がＪＣで無理なく楽しく、もっと活動できるようになると本来の意味での「多様性」が出てくると思います。「経営者じゃなきゃできない」とか「ある程度の立場の人じゃなきゃできない」ではなくて、月に使えるお金や時間の制限がある人、時間の総量ではなくて時間帯に制限がある人も活躍できるようになれば良いですね。

増田：でも大前提として、会社の理解がないと続けることは難しいですよ。僕も去年1回「辞めたい」と思って社長に相談しました。そうしたら「全然いいよ、無理してまでやることじゃないから」と言われて、そこからよく考えま

した。プラスアルファで働いて残業代が出て給料が増えるのと、ＪＣで委員会に入って地域の課題に向き合った先にあるもの——を天秤にかけて、どの方向に進んだ方がなりたいた自分になれるかを考えたとき、最終的に「ＪＣをやっていた方がなれるかな」と結論を出して今に至ります。多分いま忙しくない人はいないと思うけど、仕事を犠牲にしてまでやっちゃダメ。だけど絶対にやった方がプラスになるから、その上では会社のある程度の理解は必要なのかなと思います。

今関：うちも比較的、理解はある方です。「社員教育の一環」という位置付けにもなっているので、必ずしも本業の仕事に恩恵みたいなのがあるかないかは気にしていない。よく言われるのがＪＣって本当にいろんな業種の方がいらっしゃる。私もプロジェクトごとにいろんな業種の方にお世話になるので、そういう意味ではその業種に行くときにその専門家が仲間にくれるので、それはすごくありがたい環境だと思います。

竹内：僕は基本的には自主的に入会して活動しているので、会社として「ＪＣで仕事を取ってこい」ということはありません。それでも自分の仕事についてご相談を受けたり、情報をいただくことがあるのは本当にありがたく感じます。



増田：うちも「絶対に自分からは営業をするな」というのは会社としても言われています。それをやっちゃったら1発でそういう目で見られますしね。ただ、一生懸命ＪＣの活動を続けていけば仲間から認めてもらえて、結果的にその先に繋がることはありますが。

竹内：「営業すると、コイツは何をしに来ているんだ？」っていう。逆に一生懸命やっていると周りもそれをしっかり見えています。

——今関さんと増田さんは、ＪＣの活動以外にも自主的にイベントを企画・運営していますよね。

今関：私は子育て中の母親をターゲットにした「ママフェスまつもと」というイベントを市街地で開き、その中で防災系やキャリア系のイベントもやっています。もう一つが教育関係の団体を作って次世代教育の波及に関するイベントも団体を作って運営しています。その活動とＪＣを比較して思うのは、良い意味での公共性と市民間のバランスが取れている組織がＪＣ。卒業されたシニアの方が60年以上輩出され続けているわけですね。この地域をかたどっている幹みたいところに先輩たちがたくさんいらっしゃ



る。それが地域からの信頼になっていて、自主的な活動と決定的に違ってやりやすいところ。「ＪＣの今関です」と言って名刺を持っていくと、先輩たちがすごく親身に話を聞いてくれますから。

でも、パートナーシップの結び方とプロモーションの手法は改善の余地もあると思います。すごい人たちが時間と予算をかけてすごいことをやっているのに、最終的に市民に発信する影響力の部分をもう少し強くするとさらに信頼が高まるんじゃないかと。

増田：僕は新型コロナウイルスの影響で社会が一斉に自粛となった今年の春、「マツモトノミライチケット」という事前購入券を企画して販売しました。でもお店や新聞社を回る中で、「なんでＪＣでやらないの？」と言われたんですよ。あえて個人レベルで進めたのは、ＪＣだとちゃんとした団体だからこそスピード感で遅れを取ってしまうから。それだと有事の際に困っている人を助けようというとき、いつもの流れだと間に合わないんです。そこが今のＪＣに足りないし、本来自分たちがやらなくてはいけないこともやれていない状態。情報共有の技術も発達していろいろな方法で意思決定はできると思うので、整理しないと存在意義も薄れてしまうのではないかなと思います。

竹内：僕もそれは思うし、スピード感がないのもそう。そこにはプロセスの問題もあるし、「人の真似ではなくゼロから創造するのがＪＣ」などの「かくあるべき」像があってスピード感とともに動けない。そういうところはぜひ変えてくれればいいし、それがまちのためになるのなら二番煎じでも良いと個人的には思う。「かくあるべき」という部分をどう捉えるかをみんなで議論して深めていき、アイデンティティを改めて確立してもらえればいいかなと。スピード感は上げればいいけど、一方で順序立てるのが必要なことがあるのも確かですね。

コロナに関しても今年は本当に直面して、だからこそ動けなかったことがあります。来年はそれがあったからこそどう動くべきかを考えざるを得ない。でも渦中であるので並行して…難しいところではあると思います。来年の理事長を中心としたメンバーを見ると、毎年カラーがある中でざくばらんに横の連携を取りながら議論できるメンバーだと思うので、それを生かしてやってもらいたいです。この２人も理事になりますしね。

今関：臆せずに議論できるメンバーかなと。今この状況で大事なことをちゃんと見てくれる理事長であり、副理事長であり、理事のメンバーだと感じます。

増田：僕は来年３５歳になって初理事、初委員長。割と若い委員長で、委員メンバーは全員年上なんです。それが楽しみです。観光系の委員会ですが、今の観光産業はどこも困っています。アフターコロナに向けた一歩を踏み出せる何かを起こしたいと思っています。

今関：私は３９の歳で、最後に向かっていくタイミングでの委員長。「ＪＣでこんなことをやったよ」という背中を子どもたちや後輩、メンバーのみんなに見てもらえるような年になったらいいと思っています。今年はコロナの影響で、逆に「どうあるべきか」という本質的な部分と向き合ってられました。それを踏まえた第１歩目の６２年目ということを見ると、試される部分は当然ありながらも楽しみたいですね。

竹内：頑張ってください！僕は役員選考委員会の委員長で、副委員長２人と我々なりに頭を悩ませて選びました。メンバーの皆さんは自分の成長のためでもあるし、ＪＣが直面する課題や問題も含めてより良くするために、選ばれた責任感とプライドを持ってやってほしいですね。

——あとは新しい仲間の入会にも期待したいですね。

今関：私もサラリーマンであり、母でもあります。来年の理事は家族もいる人の比率が高いので、全体的に入りやすいと思います。

竹内：誘われる機会や入るきっかけがある場合はやってみてください！と言いたいです。やってダメなら辞めればいいし、せっかくいろんな経験ができる場所。イメージだけで敬遠しているのはもったいないので、会社員であろうともぜひ入って頑張れそうなら入ってもらいたいですね。

増田：そうですね。思っているよりもサラリーマンの入会者数は多いし、自腹を切ってＪＣに入っている人もいます。それでも辞めていないのは、得るものがあるからこそ。誰しも辞めたいと思うかもしれないけど、今後の自分の人生を考えて辞めるならそれは尊重するし、そうでなければ頑張っただけ充実した時間になると思います。



卒業生の 最後にこれだけは 言いたい!!



松本青年会議所に入会してこの街の事が好きになりました。松本青年会議所に入会してここに住もう人が好きになりました。松本青年会議所に入会して誇りを持つことができました。8年間本当にありがとうございました。

伊藤 総一郎



現役メンバーへ
様々な“機会”がJCには存在しています。機会を活かすのかどうかは自分次第です。

目の前の“機会”を自分から取りに行き、挑戦をして、大いに楽しんでください。4年間、ありがとうございました。

平林 正浩



青年会議所は多くのことを学べます。1番成長できるのは理事をやったり出向に行くことです。声がかかったら「YES」か「はい」と答えましょう。事業が出来なくても成長したな—と思えるJCライフを過ごして下さい!

by松本のアイドル ジャッキー

齋藤 直宏



真面目に活動したのか? と振り返ると、そんなことはありませんでしたが、同世代の仲間がたくさんでき、ここになければ得られない経験ができたことに感謝しています。ありがとうございました。

福澤 崇浩



入会して本当に良かったと言えます! もし入会していなかったら、これほど“このまち”のことを考えなかったでしょう。多くの仲間達と出会うこともなかったでしょう。楽しいだけじゃない、苦しい時もあったけど、JCは多くのものを与えてくれました。今度はそれを“このまち”に返せるように頑張ります! 10年間ありがとうございました。萩原 直基



JCを卒業する時間が刻一刻と近づいている。やっと、JCとは何たるかを理解してきたつもりであるのに、生物にも、生をうけた瞬間に有限の時間がある。その一瞬の時間を、熱く共有できた事を感謝します。ありがとう。

土屋 真博



何の志もなく松本JCに入会しました。このまちの為に何ができたかと問われたら答えに困るけど、このまちが今まで以上に大好きになりました。松本JCに入ったから出会えた人がたくさんいて、経験できたことがたくさんあります。4年間幸せでした!! ありがとう!!

竹内 隆



「有難う」
先輩の皆さん有難う 同期入会の皆さん、有難う
同卒の皆さん、有難う 現役の皆さん、有難う
様々な難が有ったからこそ 有難う!

西山 裕一



MJCのよいところは、メンバー達がMJCとそのメンバーを愛していることだと思います。参加するメンバーを「ありがとう」と笑顔で迎え続けることが、会員の姿勢を積極的なものに変えたり、会員を拡大する上で大事だと思います。組織を守るうえで大事なことで、MJCで学びました。ありがとうございました。

新井 泰憲



5年間松本JCにお世話になりました。松本JCで学んだことを次は地域へ還元できるよう頑張りたいと思います。「最後にこれだけは言いたい!」ですが、「地域のドラえもんを目指せ!」ですね。これからも頑張ってください!!

三村 敦



40歳卒業の青年会議所。私の在籍は2年。2年以上あり! と思っておりましたが、ギリギリになると郷愁の念がわいてまいります。あと少しは居てもよかったなと。これから入る人。まだ在籍期間たっぷりある人。悔いなきJCLIFEをお過ごしください。

菊池 友

出向者にも苦難の1年でした

本年度は日本青年会議所へ5名、北陸信越地区協議会へ5名、長野ブロック協議会へ8名出向。地域の往来が制限され、各種大会も中止やWEB開催が余儀なくされるなど、大きな影響を受けました。

しかし、行動も人の心も内向きになっていく中、「こんな時だからこそ地域から外へ」と、各青年会議所の先駆けとして走り抜けてくださいました。



咲き乱れよう未来のため、郷土のために



2020年、新型コロナウイルスの感染拡大によって私たちの生活は一変しました。青年会議所活動においても見直しを余儀なくされました。理事長としては、昨年10月から必死に各委員会が考えて作成した年間計画が達成どころか実施すら出来ないかもしれない。そう思うと本当に悔しかったことを今でも鮮明に覚えています。

ただ、そのような苦しい状況下でも各委員会は「愛する郷土をより良い方向に導く」という強い意志を持って行動を起こしてくれました。決断の連続で苦しい時期もありましたが、終わりが近づいてみると私たちは状況下で失ったものより得たものの方が多かったと感じます。諦めずに青年らしく運動を続けることが地域に力を与えます。会員一人ひとりの個性の花が咲き乱れた2020年。支えていただきました、皆様に深く感謝申し上げます。1年間本当にありがとうございました。

61代理事長 小林 篤史



一般社団法人
松本青年会議所



YouTube MJCチャンネル

松本青年会議所 YouTubeチャンネル



「MJCチャンネル」スタート!!

動画を通して私たちの活動を皆様のもとに発信していきます。ぜひご視聴ください!

12月1日より

2020年度活動動画配信!

現在「松本城の疑問聞いてみた」配信中
こちらをご覧ください!!

チャンネル登録をお願いします→



募集

2021年度入会者を募集中!!

11月現在、10名の2021年度入会候補者が準会員として活動中。新しい仲間と出会いたい方、もっと成長したい方。一緒に活動をしませんか。

ご紹介もお待ちしております!



お問い合わせは
事務局まで!!



編集後記

本年度最後となる「Leaders」盛りだくさんでお届けしました。コロナで始まりコロナで終わりを迎えるような2020年度。悔しい想いもりましたが、今年だからこそこの収穫がたくさんありました。この経験は必ずやこれからの運動の糧になるものと信じています。私たちが吹かせた風をどれだけのひとに届けられたか、答えはすぐには出ないかもしれませんが小林篤史理事長のもとメンバーは全力で駆け抜けてきました。「百花繚乱」、2020年度の松本青年会議所はたくさんの華を咲かせました。この景色が少しでも多くのひとのところに残ればうれしく思います。

1年間ありがとうございました!!

広報渉外拡大委員会 委員長 竹内 隆



紙面向上のため、アンケートにご協力をお願い致します。
← QRコードよりアクセスください。

一般社団法人 松本青年会議所 広報渉外拡大委員会

事務局 〒390-0811 長野県松本市中央1-23-1 松本商工会館3F

TEL.0263-32-7646 FAX.0263-36-2024

HP <http://www.matsumoto-jc.jp>



公式サイト



Facebook



Instagram

一般社団法人 松本青年会議所は
SDGsを推進しています。

